

環境報告書（2020年度のまとめ）

株式会社 カネテツ

内容

1. 運用管理

[1]～[4]：2020年四半期ごとの状況

- (1) 電力使用量
- (2) 重機燃料比
- (3) 輸送燃料比
- (4) グリーン購入
- (5) 入荷・出荷・在庫状況
- (6) 用紙の使用

2. 太陽光発電について

3. 省資源、省エネルギーへの取組み

4. リサイクル率の推移

5. 騒音関係、清掃活動など

2020年 運用管理の進捗状況 (1)

(2020/1月 — 2020/3月)

1. 電力使用量

1月～3月の月間電力使用量は17,965kwh～20,677kwhで、平均すると19,478kwhであり、昨年度1年間実績平均の18,319kwhより6.3%増えている。昨年に比べて、計量のタイミングでの月間変動もあるが、出荷量は昨年の2,627t→2,786tと6.1%の増加である。処理量が増加しているのと併せて、電力平均原単位は6.973→6.992kwh/t(出荷量)と若干増えている。

2. 重機燃料比

出荷量平均は、前年の2,627t→2,786t/月と6%の増加であるが、場内作業重機の燃料比は1月～3月で前年の2.009→1.953l/t(出荷量)と若干減少している。3月以降の新型コロナ問題で入荷/出荷ともに減少傾向にあり、重機燃費の増大が想定される。今後も更なる効率的な作業が望まれる。

3. 輸送燃料比

輸送燃料比は2019年度に比べ出荷量は6%増加であるが、2.746l/t→2.426l/tと向上している。外部委託の変動と、遠方の顧客への輸送の変化などが影響している。

更には昨年来の集計もれのないように請求書レベルでの確認が明確になっている。

4. グリーン購入

1月～3月におけるグリーン購入の比率は66.14%と目標の30%を達成している。昨年は年間で35.1%であった。グリーン購入が定着しているが購入金額が少ないために変動が大きい。購入品目は事務用品が主体であるが、環境配慮型でないものが大半のものもあり、購入金額は月額2万円程度であるが、比率が低い状態で推移している。環境配慮の考え方は引き続き、購買面で確実に定着している。

5. 入荷・出荷・在庫状況

1月～3月の入荷量は2,444t/月で、昨年実績の2,419t/月を大きく上回っている。一方、出荷量は、1月～3月平均で2,786t/月となっている。大幅に、在庫を減らして出荷する形となっている。置場の整理が進み、置場の整理は安全作業にもつながるが、入荷/出荷が昨年に同様に、バランスしていない。

6. 用紙の使用

用紙の使用状況は、1月～3月では6,200枚/月で、昨年実績平均(6,292枚)とほぼ同様である。特にA4が減り、A5使用量が増えている。今年度はB5/B4の使用がない。入荷、出荷処理のための使用であるが、入荷量減少、出荷量も横ばい傾向であったが、全体としての紙使用は横ばいの傾向にある。

2020年 運用管理の進捗状況（2）

(2020/4月 — 2020/6月)

1. 電力使用量

4月～6月の月間電力使用量は14,541kwh～17,594kwhで、平均すると16,272kwhであり、1月～3月の19,478kwh、昨年度1年間実績平均の18,319kwhより大きく減少している。4月～6月はコロナ問題で入荷／出荷が大きく落ち込んでおり、場内作業での使用電力減少となっている。月間変動もあるが、出荷量は1月～3月の2,786t→2,156tと23%の減少である。処理量の最大は3,000tであり、この3か月は7割程度の業務量となっている。電力平均原単位は昨年の6.973→7.233kwh/t（出荷量）とかなり悪化している。

2. 重機燃料比

出荷量平均は、前年の2,627t→2,471t/月（1月～6月）と6%の減少である。場内作業重機の燃料比は1月～6月で前年の2.009→2.072l/t（出荷量）と若干+3%と悪化している。3月以降の新型コロナ問題で入荷／出荷ともに減少傾向にあり、場内作業の非効率化が要因となっている。今後も作業量減少に関する、効率的な作業が望まれる。

3. 輸送燃料比

輸送燃料比は1月～3月が2.379l/tで、昨年の2.746l/tに比べて向上している。外部委託の変動と、遠方の顧客への輸送の変化などが影響している。しかし、4月以降は輸送量事態の減少で1月～6月の平均で2.558l/tと悪化傾向にある。

4. グリーン購入

1月～6月におけるグリーン購入の比率は37.05%と目標の30%を達成している。昨年は年間で35.1%であった。グリーン購入が定着しているが購入金額が少ないために変動が大きい。購入品目は事務用品が主体であるが、飲料水などの購入を従来は計上していたが、今年度は除外している。購入金額は月額2万円程度であるが、比率が低い状態で推移している。環境配慮の考え方は引き続き、購買面で確実に定着している。

5. 入荷・出荷・在庫状況

1月～3月の入荷量は2,444t/月で、昨年実績の2,419t/月を大きく上回っている。一方、出荷量は、1月～3月平均で2,786t/月となっている。大幅に、在庫を減らして出荷する形となっている。4月以降は、コロナ問題で、入荷／出荷ともに減少幅が大きく、入荷が2,100tレベル、出荷が2,200tレベルである。置場の整理が進み、置場の整理は安全作業にもつながるが、入荷／出荷が昨年に同様に、バランスしていない。

6. 用紙の使用

用紙の使用状況は、1月～6月では5,500枚/月で、昨年実績平均（6,292枚）より大幅に減っている。特にA4が減り、A5も若干減っている。今年度はB5／B4

の使用がない。入荷、出荷処理のための使用であるが、入荷量減少、出荷量も減少傾向であり、全体としての紙使用は減少の傾向にある。

管理責任者

2020.7.27

2020年 運用管理の進捗状況（3）

(2020/7月 — 2020/9月)

1. 電力使用量

7月～9月の月間電力使用量は14,537kwh～18,202kwhで、平均すると16,018kwhであり、1月～6月の17,875kwh、昨年度1年間実績平均の18,319kwhより大きく減少している。4月～9月はコロナ問題で入荷／出荷が変動し、大きく落ち込んでおり、場内作業での使用電力減少となっている。月間変動もあるが、出荷量は1月～6月の2,487t→2,394tと3.6%の減少である。処理量の最大は3,000tであり、この3か月は7割程度の業務量となっている。電力平均原単位は昨年の6.973→7.045kwh/t（出荷量）と若干悪化している。

2. 重機燃料比

出荷量平均は、前年の2,627t→2,394t/月（1月～9月）と9%の減少である。場内作業重機の燃料比は1月～9月で前年の2.009→2.051l/t（出荷量）と若干悪化している。3月以降の新型コロナ問題で入荷／出荷ともに減少傾向にあり、場内作業の非効率化が要因となっている。今後も作業量減少に対応する、効率的な作業が望まれる。

3. 輸送燃料比

輸送燃料比は1月～9月が2.544l/tで、昨年の2.746l/tに比べて向上している。外部委託の変動と、遠方の顧客への輸送の変化などが影響している。しかし、4月以降は輸送量自体の減少があるが、4月～9月の平均で2.659l/tと悪化はおさまりつつある。

4. グリーン購入

1月～9月におけるグリーン購入の比率は38.99%と目標の30%を達成している。昨年は年間で35.1%であった。グリーン購入が定着しているが購入金額が少ないために変動が大きい。購入品目は事務用品が主体であるが、飲料水などの購入を従来は計上していたが、今年度は除外している。購入金額は月額2万円程度であるが、比率が低い状態で推移している。環境配慮の考え方は引き続き、購買面で確実に定着している。

5. 入荷・出荷・在庫状況

1月～9月の入荷量は2,177t/月で、昨年実績の2,419t/月を大幅に下回っている。一方、出荷量は、1月～9月平均で2,445t/月となっている。大幅に、在庫を減らして出荷する形となっている。4月以降は、コロナ問題で、入荷／出荷ともに減少幅が大きく、入荷が2,100tレベル、出荷が2,200tレベルである。置場の整理が進み、置場の整理は安全作業にもつながるが、入荷／出荷が昨年に同様に、バランスしていない。

6. 用紙の使用

用紙の使用状況は、1月～9月では5,722枚/月で、昨年実績平均（6,292枚）より

大幅に減っている。特にA 4が減り、A 5も若干減っている。今年度はB 5／B 4の使用がない。入荷、出荷処理のための使用であるが、入荷量減少、出荷量も減少傾向であり、全体としての紙使用は減少の傾向にある。

管理責任者

2020.10.27

2020年 運用管理の進捗状況（4）

(2020/10月 — 2020/12月)

1. 電力使用量

10月～12月の月間電力使用量は14,591kwh～17,594kwhで、平均すると16,272kwhであり、1月～9月の19,478kwh、昨年度1年間実績平均の18,319kwhより大きく減少している。4月～12月はコロナ問題で入荷／出荷が大きく落ち込んでおり、場内作業での使用電力減少となっている。月間変動もあるが、出荷量は1月～12月の前年比2,627t→2,416tと8%の減少である。処理量の最大は3,000tであり、この3か月は7割程度の業務量となっている。電力平均原単位は昨年の6.973→7.000kwh/t（出荷量）とかなり悪化している。

2. 重機燃料比

出荷量平均は、前年の2,627t→2,416t/月（1月～12月）と8%の減少である。場内作業重機の燃料比は1月～12月で前年の2.009→2.068l/t（出荷量）と若干（+3%）と悪化している。3月以降の新型コロナ問題で入荷／出荷ともに減少傾向にあり、場内作業の非効率化が要因となっている。今後も作業量減少に関する、効率的な作業が望まれる。

3. 輸送燃料比

輸送燃料比は1月～12月が2.528l/tで、昨年の2.746l/tに比べて向上している。外部委託の変動と、遠方の顧客への輸送の変化などが影響している。しかし、4月以降は輸送量事態の減少で10月～12月の平均で2.478l/tと若干向上傾向にある。

4. グリーン購入

1月～12月におけるグリーン購入の比率は37.19%と目標の30%を達成している。昨年は年間で35.1%であった。グリーン購入が定着しているが購入金額が少ないために変動が大きい。購入品目は事務用品が主体であるが、飲料水などの購入を従来は計上していたが、昨年度からは除外している。購入金額は月額1.5万円程度であるが、比率が低い状態で推移している。環境配慮の考え方は引き続き、購買面で確実に定着している。

5. 入荷・出荷・在庫状況

1月～12月の入荷量は2,199t/月で、昨年実績の2,419t/月を大きく下回っている。一方、出荷量は、1月～12月平均で2,416t/月となっている。大幅に、在庫を減らして出荷する形となっている。4月以降は、コロナ問題で、入荷／出荷ともに減少幅が大きく、入荷が2,100tレベル、出荷が2,200tレベルである。置場の整理が進み、置場の整理は安全作業にもつながるが、入荷／出荷が昨年に同様に、バランスしていない。（古河メタル入荷を加えてバランス）。

6. 用紙の使用

用紙の使用状況は、1月～12月では5,917枚/月で、昨年実績平均（6,292枚）より大幅に減っている。特にA4が減り、A5は横ばいである。今年度はB5／B4

の使用がない。入荷、出荷処理のための使用であるが、入荷量減少、出荷量も減少傾向であり、全体としての紙使用は減少の傾向にある。

管理責任者

2021.01.13

2. 太陽光発電（カーボンオフセット）について

当社は、従来からグリーン購入を進めており、リサイクル品、再生品の購入を進めており、電力についてはグリーン電力の購入を実施していた。

2015年度からは本社工場の屋根に太陽光発電設備を設置し、発電を実施している。再生エネルギーとしてはわずかであるが（現状は全量売却している）、グリーン電力の購入（カーボンオフセット）に代替する形をとっている。

会社の電力の年間使用量は、2020年度では200,000kwh、発電量は17,900kwhであり、 $17,900 / 200,000 \times 100\% = 9.0\%$ 程度の電力をグリーン化している。

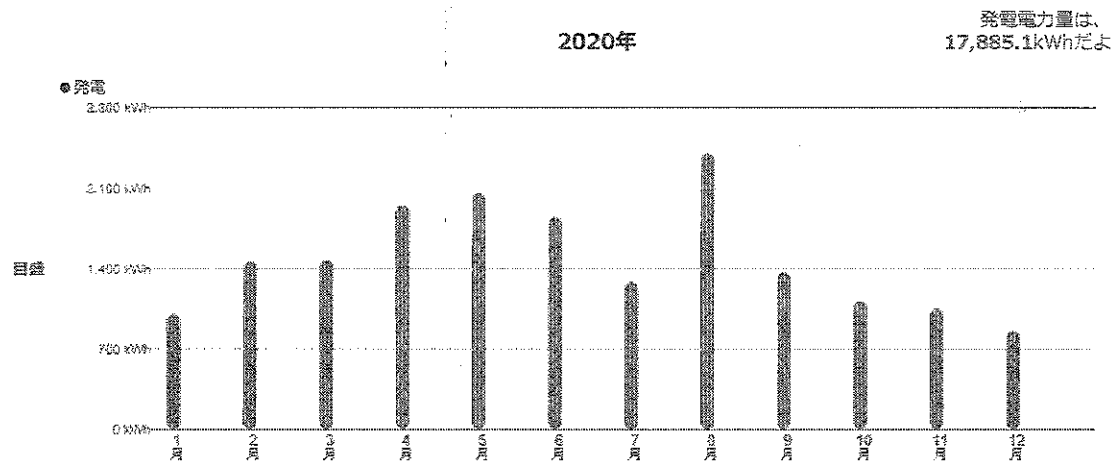
更に、本社工場以外の場所で、太陽光発電に対応（参画）しており、千葉県、栃木県、福島県、茨城県などで全体として11カ所のソーラー発電を実施、投資しており、全体の発電量は2020年度で概略、40万kwhのレベルにある。本社工場での使用電力量の約2倍の再生エネルギー発電を実施している。

（資料1：2020年度月別発電量－本社工場分）

（株）カネテツに関連する太陽光発電設備一覧

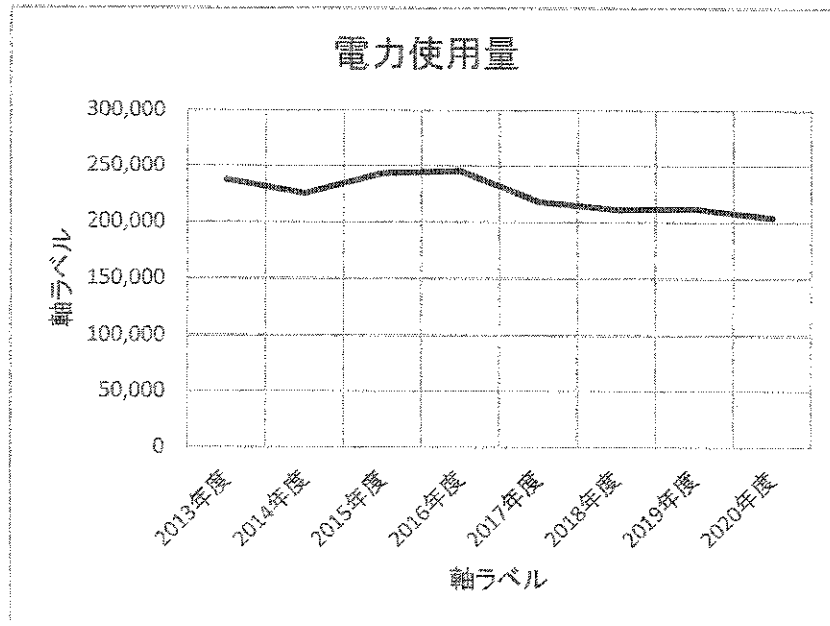
1	栃木・都賀発電所	49.5kwh	7	福島・板木沢発電所	44.0kwh
2	福島・中野発電所	49.5kwh	8	栃木・佐野発電所	49.6kwh
3	千葉・真里谷発電所	49.5kwh	9	東京・本社発電所	20kwh
4	福島・下桶売発電所	49.5kwh	10	茨城・古河マール発電所	500kwh
5	福島・南台B発電所	49.5kwh	11	福島・作鞍発電所	49.5kwh
7	福島・南台C発電所	38.5kwh			

HOME » エコグラフ

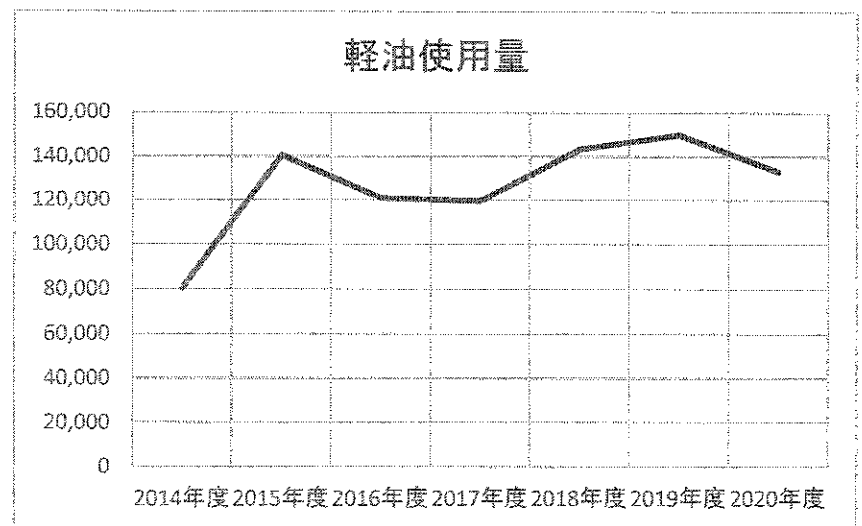


④、省資源、省エネルギーへの取組み

	電力使用量	前年比
2013年度	237,249	
2014年度	224,965	-5.2%
2015年度	243,048	8.00%
2016年度	245,310	0.90%
2017年度	218,037	-11.20%
2018年度	211,118	-3.17%
2019年度	211,828	0.34%
2020年度	204,177	-3.60%



	軽油使用量 重機+輸送
2014年度	80,437
2015年度	140,504
2016年度	121,016
2017年度	119,652
2018年度	143,364
2019年度	149,932
2020年度	133,256

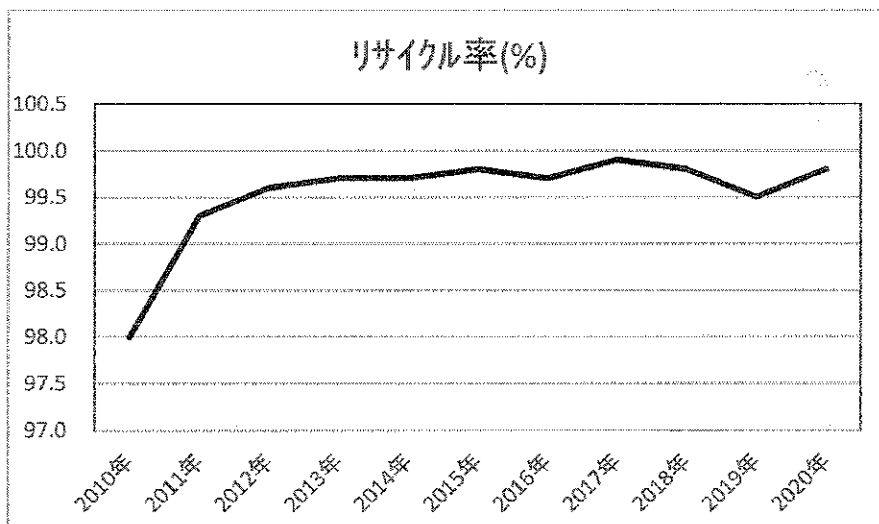


- ・電力使用管理手順書
 - ・車両運行管理手順書
 - ・ユンボ/フォーク運転手順書
 - ・キロチンシャー運転手順書
 - ・各プレス運転手順書、など
- により、省資源、省エネルギーを心掛けて作業を実施している
- ・2018年度にユンボを省エネ型、低騒音型に更新(1台)

4. リサイクル率の推移

	受入量	リサイクル量	最終処分量	リサイクル率	年度
2010	28,277	27,714	563	98.0	2010
2011	29,115	28,911	204	99.3	2011
2012	31,209	31,072	137	99.6	2012
2013	28,932	28,836	96	99.7	2013
2014	27,789	27,714	75	99.7	2014
2015	30,194	20,123	71	99.8	2,015
2016	29,930	29,854	76	99.7	2,016
2017	28,058	28,025	33	99.9	2,017
2018	28,488	28,418	70	99.7	2,018
2019	28,545	28,411	133	99.5	2,019
2020	26,129	26,074	55	99.8	

年	リサイクル率(%)
2010年	98.0
2011年	99.3
2012年	99.6
2013年	99.7
2014年	99.7
2015年	99.8
2016年	99.7
2017年	99.9
2018年	99.8
2019年	99.5
2020年	99.8



- ・2010年度は廃プラスチックとガラスくずを中央防波堤での埋立処理
- ・2011年度から廃プラスチックをRDF化のリサイクルへ変更
- ・最終処分量が減少している

5. 騒音測定結果

2020年 測定値

1月	46.2	デシベル
2月	50.2	
3月	48.7	
4月	46.2	
5月	51.2	
6月	48.7	
7月	49.1	
8月	48.6	
9月	50.3	
10月	51.8	
11月	55.9	
12月	49.7	
平均	49.7	デシベル

騒音測定は事務所の台貫操作場所で行われ、毎月1回実施。

規制値は昼間で <60.0デシベル以下であり、基準を越えることはない。